

食物アレルギーとは？

小児科部長 中農昌子
(日本アレルギー学会専門医)

食物アレルギーとは、特定の食品を食べたり触ったりした後、体にとつて良くない症状が起きてしまう病気です。

症状は、蕁麻疹じんましんなど皮膚症状に限らず、消化器症状(腹痛・嘔吐)、呼吸器症状(喘鳴・呼吸困難)などもあり、重症例ではアナフィラキシーショックといつて命に関わる状況をも引き起こします。

日本の有病率は、乳幼児で5〜10割程度ですが、学童期までに食べられるようになることが多いため、学童以降は2〜3割に減少します。

原因食物は、2・3歳までは卵・牛乳・小麦が多く、学童以降や成人では甲殻類・そばなどが増える傾向にあります。

診断方法は、問診(症状が出た時に食べた食品は何か、など)検査(血液検査・皮膚テスト・食物除去試験・食物経口負荷試験)を組み合わせて行います。

治療は「正しい診断に基づいた必要最小限の原因食物の除去」で

す。その子にとつて、症状が出ない食品を見つけ出し、安全に食べられる食品の形態と量を判定します。卵そのものが食べられなくても、卵加工品(カステラ・練り物など)なら食べられる患者さんもたくさんいます。

そして、卵・牛乳など、2・3歳で摂取可能になることが多い食品については、時期をみて除去を緩めていく指導を行います。実際に食べられるかを判断するため経口負荷試験を行ったりします。

例えば、乳児期に皮膚炎があり、血液検査が陽性であったため、除去し始めた食品を幼児期以降もずっと除去しているような人では、現在、除去が必要なものを検査も取り入れつつ相談し、緩めていきます。

食物アレルギーのご相談は随時受け付けていますので、お気軽にご相談ください。

安全で適切な時期に食物除去の解除を行えるように、お手伝いしたいと思います。

カジノ解禁

町長日記

カジノ解禁に向け自民・維新・生活の3党による法案が衆議院で審議入りし、次の国会へと引き継がれた。例に漏れず知識人を自負する方々から「ギャンブル依存症に陥る人が出るのを避けられず、対策にかかる社会的、経済的コストも無視できない」と言った、一見すると、もつともらしく聞こえるような意見がでてくる。

しかし問題はカジノの客層をどこに絞り込むかだ。私を知る限り、世界のカジノでは高級感を演出し、リゾート地のカジノであろうともビーチサンダル履きの入場は許されない。日本の公営ギャンブル場で100円馬券・100円車券を握りしめて熱くなっている客層とは明らかに違う。どちらがよいかを議論しているのではなくカジノは富裕層がターゲットである。特に外国人の富裕層を取り込むことでカジノのみならず、観光立国を目指す成長戦略の一つと位置付けることができる。

ギャンブル依存症を心配するのならむしろパチンコだろうが、誰も何も言おうとしない。カジノのように敷居が高く入りにくい特殊な場所より、すぐ近くにあり何時でも入れ、100円からでも賭け事を楽しめるパチンコという遊技



田原本町長
寺田 典弘

業に名を借りた博打こそがギャンブル依存症に最も陥りやすい賭博である。建前は100円からと言っても5万円負けるのもあつという間なら20万円儲けるのもあつという間なほど博打性が高い。しかし少し考えると、一等地に店と駐車場を設け、華やかなネオンに警備員を何人も配置しているような施設で、自分だけは儲けられると思う方がおかしいのではないか。

パチンコは日本では未だに賭博ではない。これも遊技業協会からの各種団体へのロビー活動、献金活動の賜たまひと言わざるを得ない。それにしても日本には不思議な遊技業がある。パチンコは日本以外でも存在するが、賭博と位置付けられている。パチンコの経営者に多い在日韓人の母国韓国では「人間を怠惰にして、人生を狂わせる」として2006年からは法律により全面禁止されている。それでも日本では賭博ではないと言っている。何とも不思議な遊技業である。